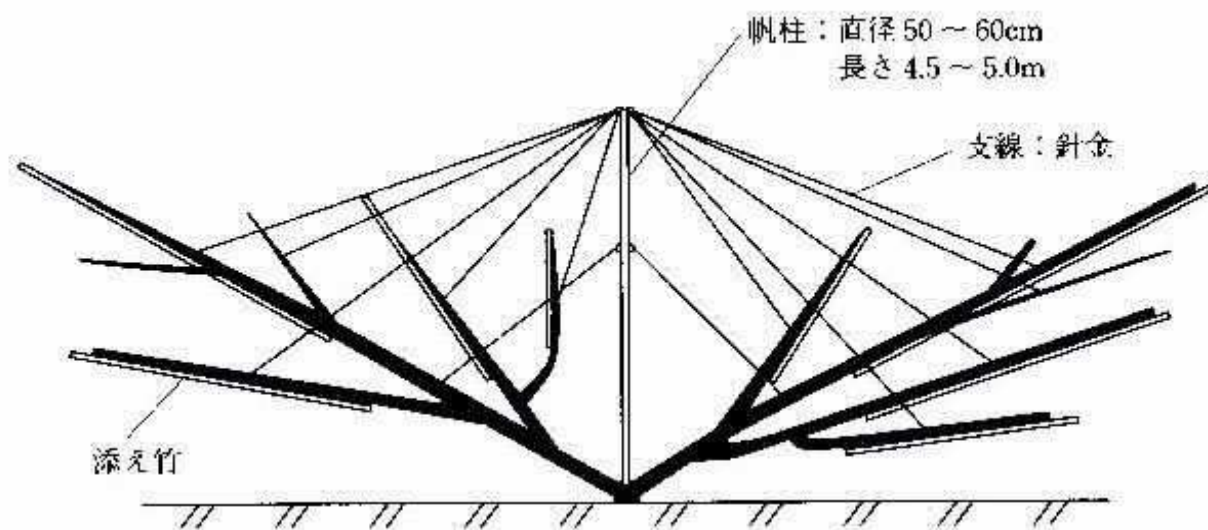


## 仕立て方・せん定

### 篠ノ井流大草仕立て整枝せん定

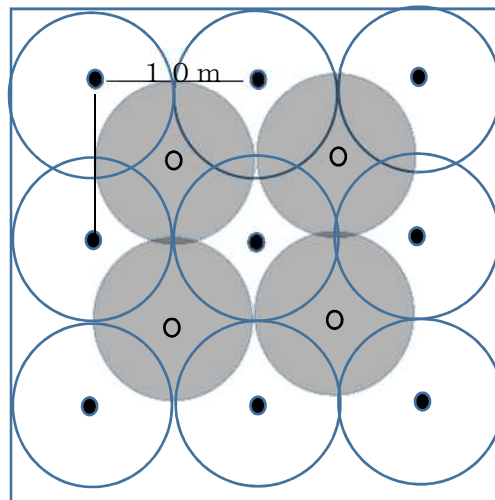
#### 1. 目標とする樹形について

- ・仕立ては開心自然形をより低くした樹型で、樹高を3.5～4.0mに抑えるために主枝の分岐点を低くします。
- ・垂主枝は、主幹から一定距離をおいて放射状に誘導し、逆さ円すい形の斜面に配置します。このとき主枝、垂主枝の先端には果実の荷重による下垂を防ぐため竹を添え、帆柱からの針金で吊り上げます。
- ・側枝は下垂させず、切り戻しを繰り返しながら短く維持し（最長1m程度）、やはり円すい形の斜面に配置する。つまり、発生する枝をすべて斜面に誘導するので、上下の関係で重なる側枝はなくなります。
- ・樹勢は強く維持し、剪定は極めて強剪定である。中短果枝を中心に着果させるので果形が安定し、結果部位を主枝、垂主枝の近く配置するので養分の流れが円滑になり、着果量を密にしても十分な玉張りを得ることができる。強固な骨格をバランス良く配置し、強い樹勢を維持することで健全な果実が結実すると考えます。



## 2. 苗木の植え方

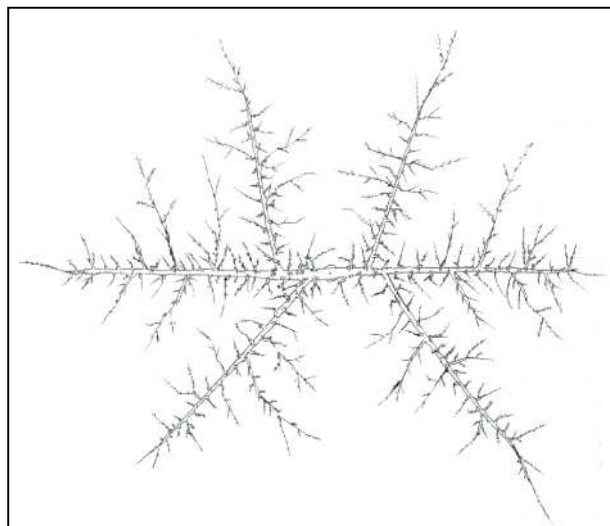
- ・栽植距離は9 m～10 m以上に行います。ただしどうしても初期収量が減ってしまうため、間伐を予定した場所に（灰色の円）4本ほど多めに植え付けましょう。生育後は、必ず間伐を行いましょ。
- ・畑の形状から右記図のような栽植できない場合は千鳥植えの方法がありますので、技術員に相談をしましょう。



## 3. 目標樹形

### (1) 1年目の目標

- ・目標樹相をイメージして骨格形成を優先します。
- ・第1主枝、第1亜主枝（第2主枝側）を選定します。



### 【斜め植えの場合】

### (2) 1年目の整枝・剪定

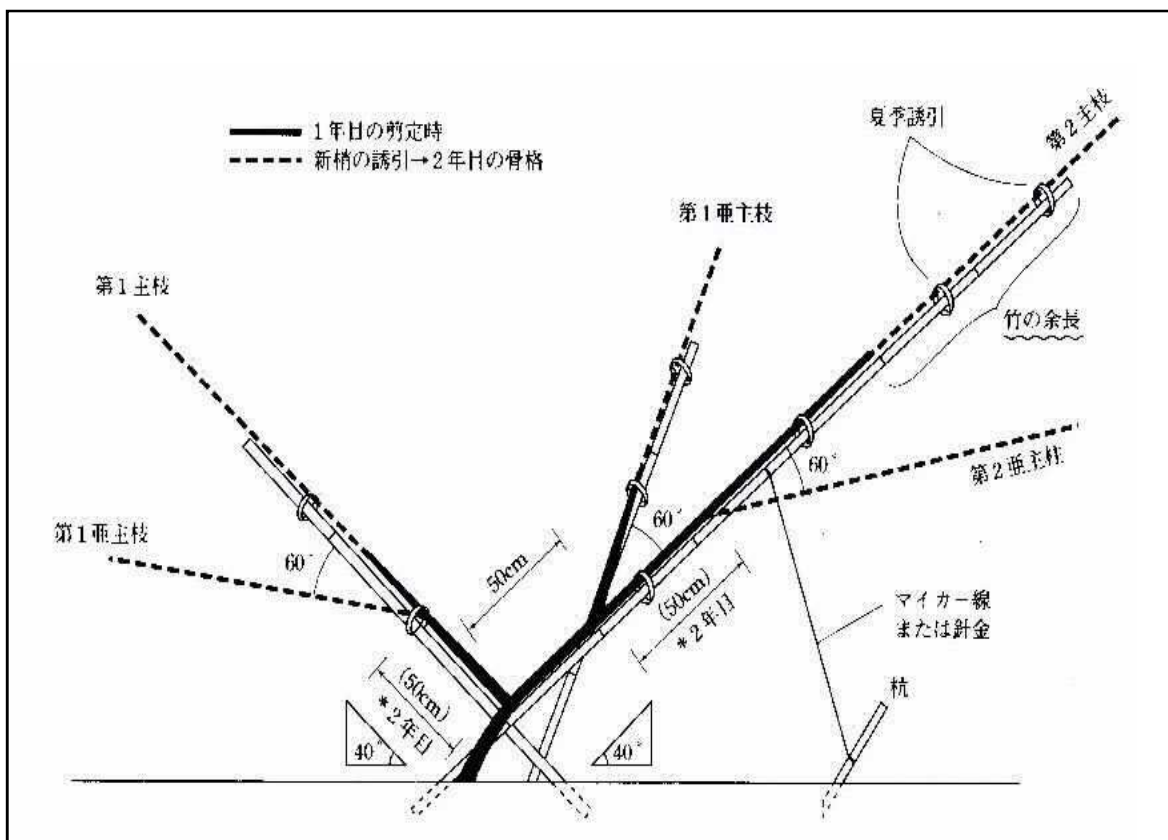
- ・高さ50 cm以内で、なるべく弱い副梢を第1主枝に決め、第2主枝と反対方向へ、地面に対し35～40度の角度に誘導します。さらに、主枝の分岐点から50 cm以上離して、第2主枝の側面斜め下方向から発生した副梢にて第1亜主枝を決めます。すべて同年枝でかまいません。
- ・先端を切り返してしまうと強い新梢が複数発生し方向性が定まらないため、**主枝、亜**

主枝の先端の切り返しは行いません。

- 先端より50cmから100cmまでの長めの竹を添え方向を整えます。翌夏は骨格枝の先端に新梢伸長を誘発させ、この徒長枝を竹の余長に誘引して樹冠の拡大を図ります。
- 日射面（直上面）に発生した副梢は、10cm（2～3芽）残して剪定し、日やけ防止に使います。この5cmには翌夏に徒長枝が発生するので、次年度の新梢管理で中短果枝化した後、結果枝に用いる。将来はコンパクトな側枝になります。

(3) 2～3年目の整枝・剪定

- 第1垂主枝、第2垂主枝を選定し、放射状に誘導する。分岐角度は、約60度。添え竹と、仮帆柱による吊り上げにより目標樹相に誘導します。



※参考引用文献：矢崎様「矢崎フルーツ園HP」参考